

じやりみち

新しいスタッフ
“ぶくちゃん”

……仮設支援情報……

第39号 発行日 97.5.15

阪神・淡路大震災

「仮設」支援NGO連絡会

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL:078-578-6921 / FAX:078-578-6923

E-mail:ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

口座番号:01180-6-68556 (郵便振替)

雨が続く季節になりました。事務局のみんなで話し合った結果、じやりみちの発行日は、第3木曜日ということに決まりました。内容なども今年度の事業が始まることによって変わるかも!?これらを読んで下さっている皆さん、是非何か寄稿して下さいな。みんなでつくっていきましょう!!

先月からの動き

- 4/20 (日) 村井くん台東区へ
- 4/21 (月) 灰谷健次郎といのちのひろば展実行委員会
- 4/23 (水) 事務局会議/吉江中学校被災地視察受け入れ/ **全体会**
- 4/24 (木) 市民版引っ越しプロジェクト会議
- 4/25 (金) **御蔵5-5の会** (共生・共創センター)
- 4/26 (土) 小島くん送別会
- 4/30 (水) 事務局会議
- 5/3 (土) 灰谷健次郎といのちのひろば展
- 5/7 (水) 事務局会議/ **全体会**
- 5/9 (金) 事務局会議
- 5/10 (土) **演劇キャラバン** in 藤沢
- 5/14 (水) 事務局会議/ **総会**
- 5/15 (木) **御蔵5-5の会** (共生・共創センター)
- 5/17 (土) 市川さん送別会
- 5/21 (水) 事務局会議/ **ざっくばらん**
- 5/24-25 **災害ネットワーク** in 名古屋
- 5/28 (水) 事務局会議/ **全体会**

北朝鮮食糧危機・イラン大地震 に対して緊急支援を呼びかけま す!! (別紙参照)

今回阪神・淡路大震災を機につながつた全国の支援ネットワークが役割を分担し、緊急支援をしていこうということになりました。こんなふうにお互いが連携していろいろなことに取り組んでいけば、きっといいネットワークができるような気がします。これからのネットワークは人と人です。「防災は友達づくりから」という言葉もあります。

震災で多くの犠牲者を出しましたが、得た教訓の一つは、人と人とのつながりの大切さだと思います。「仮設」NGOの全国ネットワークは着々と広がりつつあります。一人一人の力は小さいけれど、それが積み重なり、集まると大きいものです。ある日突然、私たちのスタッフがあなたの職場に、あなたのお家に、お伺いするかもしれません。その時はよろしく願います。またいつでも呼んで下さい。ネットしましょう。

全国キャラバン担当・村井

全体会・ざっくばあんの報告

4月23日全体会まとめ

まずはじめに情報交換をしました。その中で出てきたのは「生活保護」についての話し。ボランティアがどこまでどう関わっていけばいいのだらうか?という意見が出て、それに対して重点的に生活保護のことを行っている団体さんから、アドバイスをもらいました。原則的には本人が行けるなら本人に行ってもらう方がいいそうなのですが、行政の敷居が高い分、一人では行けなかったり、いまいち内容を知らないことからうまくいかなかったりするのでは、そういった時に一緒にいて行ってあげるのはいかがでしょうか?ということでした。

次にざっくばあんの報告ということで、「共生・共創センター(仮称)」チームの経過報告と、「提言・提案」チームの報告がなされました。共生・共創センターのチームからは「実行委員会形式で行って行きたい。」ということの提案が承認され、提言・提案チームからは「ボランティア」と「公的支援」について重点的に考えていこうということが承認され、じやりみ

ちをいろいろな提言・提案の発信の場として考えていくことから、寄稿を呼びかけました(さつそく「ぐるうぶ・えん」さんの呼びかけ文を掲載します。別紙参照)。また、5月14日に総会があることから、事前に今年度の事業内容を配り、総会までに見ていただくことにしました。(実は今回の事業内容は各団体さんをお願いして書いていただいたものもあり、まさにみんなで作った事業内容なんです。)他には、新たに個人・団体会員の申し込みがありましたので、その承認を行いました。そして、5月で我が事務局長いつちこと市川さん(SVA神戸事務所所長)がこちらでのお仕事を終了し、東京のSVA事務所に戻られてしまうことから、事務局の体制について少し話しをしました。96年度は実質代表と事務局長を村井が兼任していたことから、97年度は阪神・高齢者障害者支援ネットワークの梁(リョウ)さんに代表をやってもらえないのだらうか?という提案がされましたが、これは次回に持ち越されました。

5月7日全体会

まずは情報交換。時期的にも公営住宅への移行に關しての話し合いが中心でした。

ふれあい喫茶をしていると、公営住宅にいく人の増えていく中で、なかなか当たらずに残っている人たちのストレスやプレッシャーを聞く。老人の中には、「また移る」ことへのしんどさから、残りたいという声も。

社交性がある人は仲間を作って出ていくことができるが、社交性のない人や、障害者や高齢者の方たちは結局残っていく。自立可能な人は出ていき、介助の必要な人が残る傾向がますます強くなってきている。

公営住宅の当選通知が仮設住宅に配られるとき、当選者のポストには封筒、落選者のポストにはハガキが届くという。これでは誰が当たったのが明解。露骨すぎるのではないだろうか。当たらない人たちの心のケアが必要になってきているのでは。士気が下がっているのは現実。

公営住宅に関わっていくことになった。地域の方たちとどのようにつながりをもたせようかと検討しているところ。顔をあわせる場所を設けたい。

引っ越しは市民引っ越しネットワークにつなぐことでうまく連携がとれたら。0120-154043（がんばろう神戸内）

今回の抽選も障害者や高齢者が優先的に入っており、仮設住宅と同じ現象がおきかねない。入ってからのケアが必要になってくるだろう。

仮設住宅で火災報知器が電池切れになっているという話を前回したが、行政が対応してくれるとのこと。しかし自治会の人がいうには「作動した頃には燃え落ちてるよ」……何のためにつけているのやら。

情報交換の後、5月14日の総会に向けて96年度の事業総括、97年度の事業方針及び予算案の説明をしまし、また代表の選出は全体会で行うという会則にもとづき、代表の選出、そして事務局長の任命をしました。4月23日に推薦のあった、阪神障害者高齢者支援ネットワークの代表世話人である梁（リヤン）さんが全員の挙手によって承認されたあと、事務局長を村井くんが担うことが、全員の挙手と笑顔で承認されました。

総会の報告

5月14日に会則に基づいて総会を行いました。54の入会団体のうち、25団体の参加があり（ほか委任状11通）、わかちあい阪神の殿本さんに議長をして頂きました。総会では'96年度総括、'96年度決算報告、'97年度事業方針、'97年度予算案についての審議を行い、それぞれ賛成多数で承認を得ました。また監事の選出を行い、プロジェクト1-2の有光るみさんとわかちあい・阪神の殿本弘さんを'97年度の監事として承認しました。

（詳しい報告書及び総括や事業方針などの資料をご希望の方は、事務局までご連絡下さい。）

また'97年度の体制としては、

代表：梁 勝則
（阪神障害者高齢者支援ネットワーク）

事務局長：村井 雅清（ぐろうぶ・えん）

監事：有光 るみ（プロジェクト1-2）

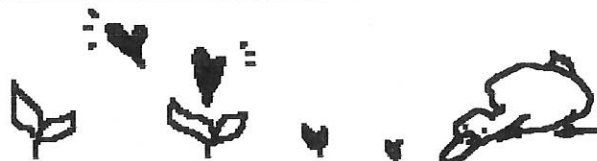
殿本 弘（わかちあい阪神）

事務局スタッフ：

鈴木 隆太、山田 光、福田 和昭

ということで承認されました。
今年度もよろしくお願ひします!!

「きれいだね、カッコいいね！」
のひとことが痴呆症を遅らせる!?



ある日の神戸新聞を読んでいたのだが、顔や腕を優しくマッサージすることで気分をゆつたりさせる「ビューティーケア」というのがあるそう。寝たきりのお年寄りに対して優しく声をかけながらハンドマッサージするんだそうで、医学的效果よりもスキンシップや会話によって、気持ちをリラックスさせるのだそう。これは相手が男性でも女性でもやり方は同じで、女性には口紅をさしてあげることもあるとのこと。これにはリラックス効果の他に痴呆の症状が緩和されるなどの効果もあるという。

そういわれると私にも心当たりがある。東灘区のある地域型仮設住宅に関わっている人に聞いた話。お茶会におじいちゃんおばあちゃんが参加するのだが、おじいちゃんがいるから、おばあちゃんはやっぱりなんとなくきれいにきて来るんだそう。もちろなおじいちゃんも同じ。しかもその日に何の服を着ようかな、とか、あの人は来るだろうか?と考えたりするもんだから、そりゃ痴呆の症状も進まない。年をとっても気持ちは変わらないよ!!と考えねばと感じた今日この頃。

未使用

てれびおんカード、く・だ・さ・い♡



共生・共創センター（仮称）チーム

4月25日御蔵5-5の会

共生・共創センター（仮称）を立ちあげようということで始まった話し合い。事務局のとなりのプレハブの2階を改造してリサイクルショップを立ち上げ、被災者の方の仕事作り・生きがい作りをということが主旨でした。前回までの話し合いでは、保健医療相談所を設ける、食堂を開くといった提案もありましたが、短い時間での責任の持てない診療は逆にあまりよくないといったことや、飲食関係で必死に震災後生計を立てている被災者の方が多いことを考慮し、食堂はやらず、リサイクルショップを主にして何かできないだろうかということまで話し合いがされました。

4月23日の全体会、25日の御蔵5-5の会（ざつくばらんのチームと別に、この御蔵地区のボランティア団体さん：まち・コミュニケーション事務局、ひまわり食事会、すたあとと長田の3団体が集まった話し合い）での話し合いと、ずいぶんいろいろな意見が出、具体的に進み始めました。まずはみんなの声を。

畳を入れよう!!座れるスペースを大きく。

2階よりも1階を使いたい。

足湯マッサージをするスペースが欲しいね。

手作り作品をおいたら、「これなら私もできる」とか「やってみたい」という声もでてきて、生きがい作りになるんじゃない?

全国からタオルを募り、そうきんにして販売し、仕事をするというのがあったけど、ベトナムの人たちの共同作業所と一緒に何かできんかな。

店の前でいろんな国のイベントすんの!将棋でもいい。

はたおり機をおこす。さおり織りする。

などなどいろいろと出ました。それでできあがったのが、下の見取り図!今は事務局隣りのプレハブの1階は、ベトナム人の共同作業所が使用しています。そこで先日話し合いが持たれ、1階を改装して一緒にやっていくことの確認がとれました。これぞまさに共生・共創! うまくいくといいなあ。

5月15日 御蔵5-5の会

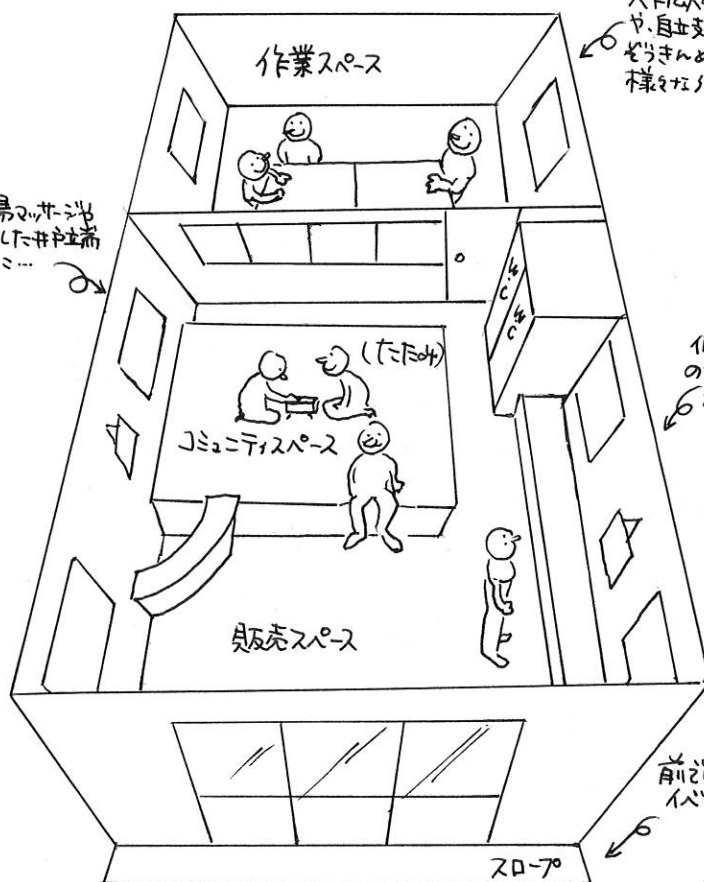
共生・共創センター イメージ図!!

前回の話し合いをもとに、具体的にスケジュールと改装の見積もりなどを話し合い、7月には立ち上げよう!!ということが決まりました。また、「共生・共創センター」は仮称なので、親しみやすい名称を考えようということで、みんなで頭をひねったのですが、次回に持ち寄ろうということになりました。

アイデア、人手大募集!!

一緒に考えてくれるボランティアスタッフ（専従スタッフ募集中）、リサイクルショップを立ち上げるための商品となるようなもの、「手作り品ここの作ったら?」というアイデア、「部屋の改装ならお任せあれ!」という日曜大工の得意な方（ぜひどなたか!）、こんな名前がいい!...などそのほか考えつくこと事務局までお寄せ下さい! そうきん用のタオルも募集します。このセンターをみんなで作っていきませんか?

足湯マッサージ
ちょっとしたお茶会
会館に...



ベトナム人の共同作業所
や、自立支援のための
ぞうきんぬいすんど、
木製の手作業スペース。

仮設の人たちの
手作り品や
作品を置く

前々回ような
イベントをする!?



担当 ひかる

ひのき、杉の間伐材、こうぞの木（和紙の原料）などを使って木工細工をしたいのですが、何かいいアイデアはないでしょうか? また興味のある方は応援して下さい。

《仮設は今...》

「復興」・「頑張り」とは？

先日、仮設住まいのNさんが電車の中でたまたま友人に会い、その友人から「あんたまだ仮設に
いるの」「地震がもう2年以上も経ってるの
に」「仮設にいる人は甘えている」「頑張りが足
りんのやない？」というようなことを言われ、大
変な衝撃を受けていた。ガックリとショゲて
「そういう風に言われてしまう自分自身がほん
とに情けない」とおっしやるのだ。もちろん、N
さんは何も好きで仮設住宅に住んでいる訳ではな
いし、この2年間何とか自分の生活の再建をしよう
と頑張ってきたのだ。

しがし、震災のショックとその後のストレスが
ら、体調を壊して仕事ができなくなる。また高齢
ということもあって民間のアパートには入れず、
恒久住宅にはなかなか当選しないのである。その
友人の無神経な言動に腹立たしさを覚えると同時
に、同じように被災しながらも何とか生きてきた
者とできなかった者の格差、言い換えれば何とか
「復興」できてきた者と、できなかった者との格
差・差別を感じざるを得なかった。「復興」を旗
印にし、それを目指す地域社会の中では、まだ自
力で何とかなる者や自立見込みのある者が優先さ
れ、自立の見込みの立たない者は捨て置かれ残さ
れて行くのである（高齢者優先・障害者優先とい
たいながら…）。

先日、公営復興住宅の第3次一元化募集の当選
者が発表された。時折訪問する仮設住宅でもその
日は何か落ち着きがなく、あちこちで井戸端が
てきていた。というのは、仮設住宅入居者50数世
帯のうち10数世帯の当選があったからだ。抽選
の確率としては大きいのだが、実は今回の募集の
中にはコレクティブハウスという、住民のコミュ
ニティを考慮して設計された住宅が含まれてお
り、仮設住宅で生まれたコミュニティや親しいグ
ループ同士と一緒に応募できるというものがあっ
た。募集側としては今までの復興住宅にはない新
しい発想の画期的な住宅で、全国的にもモデルに
なるようなものと宣伝している。

が、募集の要件は大変厳しいものがある。其
同住宅だからというので、当然のごとく共同生活
ができ、自立した生活者であることが最低の入居
条件とされる。つまり、人間関係をうまくつくれ
ない人や、寝たきりで介護の必要な人は、このコ
レクティブハウスには入居できないのである。

確かに、コミュニティは人が生きていく上で
不可欠なものである。被災者の方々は一度震災で
それを失い、必死に2年間の仮設住まいの中でつ
くってきた。なのに今、またそれを失おうとして
いる。それぞれ「植え痛み」（環境が変わること
で肉体的・精神的に受けるストレス）に傷つきな
がら。

今私たちに必要なのは、自立できる者と自立
できない者とが「共存・共生」できる、そんなコ
ミュニティなのではないだろうか。自立の見込み
や自立の可能性を復興住宅入居の要件にひいていく
住宅供給施策は、できる被災者を優先し、できな
い被災者を後回しにして、同じ被災者を峻別分断
する。そしてそれはやがて募民していく施策につ
ながるだろう。

結局、今の仮設での生活が困難な人、寝た
きりの家族がいる世帯、仲間づくりが下手な人、
部屋にこもりきりの人が一番最後まで残されてい
くので、とても複雑な思いです」。

これはある仮設住宅の福祉員の方のことばだ
が、こういう仮設住宅の現実の前に、「復興」と
は何なのか、またそれを目指す「頑張り」と
は一体何なのか、改めて考えさせられる。

仮設支援は長期戦。取り残されてゆく人た
ちに寄り添い、その方々の声や叫びを聴き続け、そ
んな声に励まされていく（励ますのではなく）者
でありたい。

1997年5月13日

日本バプテスト連盟 震災現地支援委員会
森山一弘

ひとりごと

先日、オモニとひらがなの勉強をしました。ひまわり会というSVA神戸事務所から独立した識字学校に参加してみ
た日のこと。オモニはもう80歳ちがいのですが、西野分校という識字学校と並行して通っておられます。

毎日日記をつけて、その字間違ひなどを探ることが勉強。すつごく真剣で、一文字一文字ゆつくり読んでいく姿が
とても素敵なんです。でもそんな中で心に残ったのは、だんなさんの誕生日の日の日記。子どもたちがお祝いをしてく
れたそうで、それがなんとともいえず嬉しくて、なんとかしてこの気持ちを文字に表したいといつて照れくさそうに言
いながらもすごくがんばって書いてはるんです。日常的に何の気なしに使っていた文字というものはこうして使うん
だ、て考え直させられました。そして今までこのオモニが背負ってきた苦勞はいかほどのものなんだろうか…。

被災地の孤独死に想う 孤独な生をどう考えるか ～孤独な生をなくすコミュニティはあり得るのか？～

「孤独死150人」の記事。どこまで増え続けるのだろうか。このことについて
の文章をぐるうぶ・えんのてんと村だよりから転載させていただきました。

4月26日、憲法施行50周年を前に被災地の現状から憲法を問直す記念シンポジウム「憲法が被災者を救う公的支援を求めて」が開かれました。その中でパネリストの被災者が「仮設住宅での孤独死に基本的人権はあったのか？」と訴えられたことが私には衝撃的でした。5月4日、孤独死は150名を越え、そういつたケースで亡くられる方が震災前の1.5倍という数字になったという報告がありました。

また先日、兵庫県社会福祉協議会が作った調査結果が新聞で報道されたのですが、仮設住宅に住む40～64歳の男女169人を聞き取り調査対象とした結果です。その報告によると「健康悪化などで働いていない人が56%にものぼり、働いている人でも80%が日雇いなど不安定な仕事に就いていることがわかった」のだそうです。さらに、調査中「死ぬことばかり考えているわ」と訴えた57歳の男性が、約3週間後に孤独死していたという報告もありました。この調査は65歳以下のいわゆる壮年層を対象にしたもので、従来行われている65歳以上の要援護対象者に対する対策のみでは解決しないことを物語りました。

そして今朝。新聞をめくると「56歳男性孤独死」と報じられていました。もう「孤独死何人」とか書くのも苦痛になってきます。こんなに人のいのちは軽んじられるものでしょうか？

私たちはこれら「孤独な死」を問題にするのではなく、「孤独な生」というものをどう考えるかを問わなければならないのではないのでしょうか。憲法13条には「個人の尊重」が掲げられており、先のシンポジウムでも浦部法穂（神戸大学教授）が「憲法の根っこにあら

るのは個人尊重の原理である」と述べています。私は「個人の尊重」とは、平べったく解釈すると「人間らしく、個々人が生きることのできる条件を尊重することである」と思います。だとすれば、健康状態が安定していない、食生活が十分に保障されていない、そして仕事不安定であるなどということは、人間らしく生きる以前の問題であり、政府・行政は全力を尽くしてこのような状態の解消に努めなければならないはずです。人間として生きる最低限の状況や環境が整備されていて初めて「個人の尊重」があると思うのです。

今、仮設住宅から公営住宅への移動が進んでおり、もう約3分の1の人たちが仮の住まいと決別しました（それでもまだ30,000世帯が仮設住宅に住んでいます）。新しい公営住宅には最新の安心システムが完備されているところもあります。例えば12時間以上水を使用しなかったら警備員が飛んでくるというシステムがあるのですが、これらは何か違うような気がしてなりません。やつとの想いで仮設住宅から出て恒久住宅に移られている方が求めているのは人の温もりや思いやりであって、最新式のシステムを求めているわけではないのではないのでしょうか。

私たちは被災地だけではなく、日本中どこでもこの「人と人とのコミュニティ」を作っていく工夫をしなければなりません。もし理想的なコミュニティが存在するとすれば、このように「孤独な生」について考えることはないのでしょうか。とても難しい課題だと思いますが、工夫と努力をしていかなければなりませんし、一緒にしていきたいと思います。

ぐるうぶ・えん 村井雅清

愛ちゃんの神戸巡回日記

一冊のまんがが阪神大震災の被災地で出版されました。「愛ちゃんの神戸巡回日記 三度目の冬が来た」（A5版、78ページ）です。作者は京都市の漫画家たけしきさよさん（39）。兵庫県尼崎市生まれ。神戸市内のテント村や避難所・仮設住宅を回ってボランティアを続けています。分身ともいえる「愛ちゃん」を主人公に、体験談を四コマまんがでつづりました。

テント村の真正面に住宅展示場ができたという笑えない話。マンホールのふたを外した即席の水洗トイレ。通勤には遠すぎる仮設から町中の公園に「単身赴任」する男性。復旧作業で過労死した夫の写真を手放さない妻。愛ちゃんが会った人々や風景を通して、まんがは被災地の今を語りかけてくれます。コミカルに、時には、しんみりと。

「街の惨状よりも、そこで生きる人間と暮らしを描きたかった。笑いは不真面目な態度ではなくて、まっすぐ見つめるにはあまりに被災地が深刻すぎるから」たけしきさんは、そう言います。生活再建のめどが立たないまま、多くの人々が仮設で、公園で暮らしています。「孤独死」という名の震災死は後を絶ちません。「復興につれ、取り残された被災者の不安や苦しみは深くなるのに、世間の風当たりはかえって強くなる」と唇をがみきました。

ふだんの暮らしが大震災の前には、実は薄氷を踏むような危ういものなんだと実感した人も多いと思います。「もし、地震が私に降り掛かったら……」。その共感があれば、私たちも復興の遅れる被災地をまだまだ温かく見守れるはずですよ。本は税別800円。申し込みは神戸市中央区北長狭通5-8-6、長征社（078-371-6491）。

（読売新聞大阪本社版・'97.5.4朝刊第二社会面）

情報コーナー

展示・劇

★7/15 (火) 演劇キャラバン「てくてく」

神奈川県青葉区公会堂 (045-978-2400) 14:00~15:30

◎4/29 (火) ~5/25 (日) らいじんぐ

涌嶋克己(WAKKUN)のドローイング展
JR大阪セルヴィスギャラリー (06-346-3564)
10:00~19:00 入場無料

♣5/3 (祝) ~17 (土) 橋口譲二写真展「職」

日本人と日本人を知るための仕事
場所: 應典院 (大阪市天王寺区 06-771-7641)
10:00~20:00 入場無料
主催: 應典院寺町倶楽部

長いキャリアのベテランと仕事の面白さがやっとなり始め
た若手。2人の関係性の中から見えてくる職業感や生き方の違
いを撮り続けた写真展。村井さんも写ってるよ (必見)

◆5/6~7/15 (毎週火曜日) シンポ・会議

豊かな多文化共生社会をつくるためのボラ
ンティア講座

「講座(1)異文化を理解するために」
場所: 大阪市立弁天町市民学習センター(06-577-1430)
参加者: 50名まで
参加費: 全12回 7,500円 (資料代こみ)
問い合わせ: 06-941-4793 多文化共生センター
担当: のりおか (日・月・祝休み)
E-mail: QWD01242@niftyserve.or.jp

バザー

▼6/12 (木) 弘法大師御影供二箇法要 & 阪神・
淡路大震災チャリティーバザー (震災パネル展示)

場所: 東光寺 (入間市小谷田) 法要・バザー 15:00~
主催: 真言宗豊山派埼玉3号仏教青年会
薬師護摩祈願お申し込みのご案内
無病息災の護摩札を授与致します。ご希望の方は下記までお申
し込み下さい。祈願料: 3,000円
問い合わせ: 0429-62-5442 東光寺 / 0429-62-3327 不動院

その他

◆ぐるうぶ・えんのTシャツ買って下さい

ちびくろ救援ぐるうぶが2年間お世話になった須佐野公園
を出て、新開地に拠点を移動して、「えん」という名称に変
わり、新しくスタートします。そこで空(から)くんがデザ
インしたTシャツを1,000円で販売しています。サイズはS/
M/L/LLです。えんを支えるためにもお願いしますね。
問い合わせ: 078-576-3693 ぐるうぶ・えん

■5/22 (木) 味処「酒えん」オープン

ちびくろ改め「ぐるうぶ・えん」の一角に、味処「酒えん」が
オープン。5/22 (木) ~5/24 (土) の3日間に御来店の皆さまに
は、細工寿司のサービスとビール中瓶400円→200円の半額サー
ビスを致します。腕を振るうのは調理師免許を持つスタッフの村田
くん。お食事は和会席コースとホームパーティーコースがそれぞ
れ2000円です。なおコース料理につき、来店される方は前日まで
に一度ご連絡下さい。

問い合わせ: 078-576-3693 ぐるうぶ・えん (担当: 村田)

♥リサイクル用品下さい!!

今年度、「仮設」NGO連絡会でリサイクルショップを開こ
う!という話が上がっています。で、そのための物品を大募集
します。日用雑貨が嬉しいです。電化製品、家具、衣類は取り
扱いません。石鹸とか、タオルとか、せともの、文具とか...。
問い合わせ: 078-578-6922 「仮設」NGO事務局

各団体さんの活動日誌

5/1 (木)

F Mわいわい「わいわい広場」生放送 (プロジェクト1-2)
病院送迎 (ぐるうぶ・えん)
移送サービス (ファミリー神戸)

5/2 (金)

移送サービス (ファミリー神戸)

5/3 (土)

さわやかパラソル (西宮地域助け合いネットワーク)
くるりん/フリーマーケットinボーアイ (プロジェクト結ぶ)
仮設住宅のフォト調査 (プロジェクト結ぶ)

5/4 (日)

戸別訪問 (姫路心のケアネットワーク)
英会話教室 (プロジェクト1-2)
引っ越しボランティア (ぐるうぶ・えん)
ふれあい喫茶 (ファミリー神戸)
くるりん/フリーマーケットinボーアイ (プロジェクト結ぶ)
仮設住宅のフォト調査 (プロジェクト結ぶ)
引っ越しサポート (プロジェクト結ぶ)

5/5 (月)

フリーマーケット手伝い (ぐるうぶ・えん)
入浴介助 (ぐるうぶ・えん)
仮設住宅のフォト調査 (プロジェクト結ぶ)

5/6 (火)

個別訪問 (姫路心のケアネットワーク)
ふれあい喫茶ひまわり (プロジェクト1-2)
外出介助 (ファミリー神戸)

5/8 (木)

ミニパラソル (西宮地域助け合いネットワーク)
F Mわいわい「わいわい広場」生放送 (プロジェクト1-2)
交流お食事会 (都市生活復興センター)
病院送迎 (ぐるうぶ・えん)
移送サービス (ファミリー神戸)

5/9 (金)

個別訪問 (姫路心のケアネットワーク)
市民防災研究会講演 (プロジェクト1-2)
引っ越しボランティア (ぐるうぶ・えん)
喫茶 (ぐるうぶ・えん)
移送サービス (ファミリー神戸)
親子教室「ラブライフワーク」 (プロジェクト結ぶ)

5/10 (土)

さわやかパラソル (西宮地域助け合いネットワーク)

5/11 (日)

個別訪問 (姫路心のケアネットワーク)
手作り品バザーin藤沢 (プロジェクト1-2)

5/12 (月)

引っ越しボランティア (ぐるうぶ・えん)
しじみちゃんづくり (プロジェクト結ぶ)

5/13 (火)

個別訪問 (姫路心のケアネットワーク)
集まろう姫路実行委員会 (姫路心のケアネットワーク)
外出介助 (ファミリー神戸)

5/14 (水)

個別訪問 (姫路心のケアネットワーク)
入浴介助 (ぐるうぶ・えん)
入浴サービス (ファミリー神戸)

★くるまスマップ作成!

アクティブK O B Eさんが作った障害者の目か
ら見たまち。ほしい方は事務局まで連絡下さい。

■4/20 (土) ~5/25 (日)

阪神・淡路大震災被災者への公的支援実現住民投票

場所: 街頭、診療所、商店、自治会等どこでも投票できます。
主催: 阪神・淡路大震災被災者への公的支援実現住民投票運動実
行委員会

国に公的支援の実現を強く求めるため、被災地の意志を総結集
する住民投票です。法律・条例などに基づくものではなく、住民
が自由に意思を表明するもので、被災地・被災者に限らず全ての
住民が投票できます。

問い合わせ: 078-221-2080 住民投票運動実行委員会

公的支援の実現に向けて声をあげましよう!!

みなさんご存知のように市民が発議して超党派の国会議員で提案された「災害被災者当支援法」（仮称）が参議院で上程されました。一方、国民的保障制度を求める国民運動は空前の2,400万人署名を持って審議会の設置を要求しています。また、兵庫県は「地震等自然災害による被災者支援制度（総合的国民安心システム）」の創設を提案しております。

今国会では超党派の議員立法の他に新進党案、民主党案、太陽党案の野党3党の共同提案として各々党内で固まっており、提案の時期を図っているようです。

議員立法として上程された「災害被災者支援法（仮称）」は生活基盤の回復のための公的なる支援と阪神・淡路への普及適用を強調しており、給付の対象は被災地に居住する全・半壊家屋で、一部損壊家屋は入っていません。この法案は必ずしも要援護世帯だけを救済するというものではなく、全・半壊の被害を受けた者が一律に対象となっていることに注目すべきです。

阪神・淡路のように2年も過ぎると、例えば今までなんとか頑張ってきた中間所得者層、事業者ももう限界にきています。早急に法案が成立し、普及適用されなければまた新たな犠牲者が続出するでしょう。倒産する企業や個人自営業者が増え、銀行では不良債券がふくれあがり、経済の復興どころかまさに死のまちとなるのは目に見えているのです。

阪神・淡路大震災が発生したとき、島原・普賢岳の被災者は「ああ、これで島原は忘れられる」と嘆いたそうです。そういう意味では今一刻も早く公的支援が実現しなければ島原の被災者が浮かばれないだけでなく、次に起こるかもしれない大災害の被災地が間違いなく二の舞になるのです。それだけに今阪神・淡路の被災地の役割には重大なものがあります。天災は防ぐことはできないとしてもその後二度とこのような不幸がもたらされないためには全ての人々が公的支援の実現に声をあげなければなりません。

そこで以下のような要領で、公的支援に思うことを書いて“えん”に送って下さい。えんの発行する情報紙「てんと村だより」で「私はこう思う」というコーナーを設け、全国に発信したいと思います。

キリトリ

公的支援について私はこう思う

私は（ ）県・府・都・道に住むものですが、

よって公的支援の実現を訴えます。

年 月 日

お名前

印

お手数ですが、捺印もしくはサインをお願いします。

送り先：くるうぷ・えん 〒652 兵庫県神戸市兵庫区中道通2-1-10 TEL:078-576-3693

イラン東部ホラサン州に発生した大震災に対し 緊急救援を呼びかけます!!

5月10日午後0時28分に発生したマグニチュード(M)7.1の大震災で、11日現在すでに死者2,400人、負傷者40,000人以上の大惨事となっています。

イランでは今年2月上旬にもM6の地震があり、約100人が死亡。さらに2月28日には北西部でM5.5の地震が発生、約1,000人の死者と12,000戸の全壊家屋といった痛ましい結果が生じています。

そこで阪神・淡路大震災「仮設」支援NGO連絡会では、下記の「がんばろう!! 神戸」(代表 堀内 正美)さんが呼びかけている「イラン東部地震救援物資」に協力します。

また、その中の衣類につきましては、「Support KOBÉ」さんでも集約していただきます。

義援金・医薬品(家庭用でも可)・
テント毛布衣料品(新しいもの)を
送って下さる方は...

市民ボランティアネットワーク
「がんばろう!! 神戸」
(代表 堀内 正美)

〒651-11 神戸市北区北五葉1-13-1
関西スーパー レアル店 3F
TEL 078-595-1500

義援金振込先(郵便振替口座):

01130-6-65651
加入者名義: がんばろう!! 神戸

通信欄に「イラン地震義援金」と
明記して下さい。

また、物資に関しても内容を箱の表面に明記
して下さい。

2. 同様にNGO外国人救援ネット
でも義援金を受け付けています。

義援金振込先(郵便振替口座):

01100-2-60701

加入者名義: 外国人救援ネット

〒650 神戸市中央区中山手通1-28-7

TEL 078-241-6445

通信欄に「イラン地震支援」と明記して下さい。

衣類のみを送って下さい。

(新品又はクリーニング済に限る)

〈期限: 5/17 ~ 6/17 の1ヶ月間〉

「Support KOBÉ」担当: 宮坂

〒387 長野県更埴市稲荷山905

TEL 026-272-3520 (AM10:00~PM6:00)

または 026-228-7663 (AM10:00~PM6:00)

箱に「イラン東部地震救援物資」と
明記し、1箱につき送料として2,000円を

Support KOBÉとは、阪神・淡路大震災直後、長野県内の
有志が集まり、被災地神戸を支援する会として発足した団体です。
「被災地に負担がかからない後方支援を!」をモットーに、
この2年半にわたる様々な支援を継続して下さっています。

この件についてのお問い合わせは...

阪神・淡路大震災
「仮設」支援NGO連絡会

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL 078-578-6922

FAX 078-578-6923

よくお願いします。

朝鮮民主主義人民共和国における深刻な 食料危機に緊急救援を呼びかけます!!

朝鮮民主主義人民共和国・緊急救援実行委員会 委員長 草地 賢一

1997年4月28日、朝鮮民主主義人民共和国では、1995・1996年と続いた連続水害がきっかけとなり、深刻な食糧危機が続いています。

特に子どもたちにもたらす影響は深刻です!!

明日の世界を担う子どもたちに、**米粉、砂糖、衣類**などを送って下さい!!

私たち実行委員会は阪神・淡路大震災で被災を受け、かつ2年を越える救援活動を続けている地元のグループ及び震災救援でつながった全国のネットワークで構成されています。

今回の深刻な食糧危機に対し、私たち実行委員会は、人道的立場から緊急救援を呼びかけます。

私たちは1995、1996年と実施したサハリン大地震、中国雲南省大地震に対する緊急救援活動を通じて神戸華僑総会など諸国本と連携することの大切さを学びました。阪神・淡路大震災の救援活動でも在日、滞日をはじめ、国境を越え多くの外国人と日本人が助け合いました。今回、雲南地震の神戸華僑総会支援と同様、在日本朝鮮人総連合会兵庫県本部が進めている緊急支援を、私たちNGO・市民は協力したいと思います。

つきましては右のような仕組みをもって食糧、衣類及び義援金を集めたいと考えておりますので、貴団体あるいは個人のネットワークの中で積極的に呼びかけて下さることを切にお願い致します。

なお救援物資を送る候補地として黄海南道を予定し、併せて実行委員会からスタッフを現地に派遣することと現在調整しています。

実行委員会構成団体

(5月13日現在)

阪神・淡路大震災「仮設」支援NGO連絡会/神戸華僑総会/神戸YMCA/コープこうべ/阪神大震災地元NGO救援連絡会議

期間: 5月15日～6月末まで

実行委員会事務局及び義援金窓口

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5
阪神大震災地元NGO救援連絡会議内

TEL 078-578-6921 FAX 078-578-6923

義援金振込先: 00970-7-39728 (郵便振替口座)

加者名義: 阪神大震災地元NGO救援連絡会議

◎ 通信欄に「共和国子ども支援」と明記して下さい。

物資の送付先

お米を送って下さる方は...

日本キリスト教団新潟教会

〒951 新潟市営所通2-709-2

TEL/FAX 025-222-3420

衣類(新品もしくはクリーニング)を送って下さる方は...

子ども支援プロジェクト名古屋

〒453 名古屋市中村区稲葉地町7-1 同明大学内

子ども支援プロジェクト日進

〒470-01 愛知県日進市五色園3-504

その他食料として**米粉、砂糖**を送って下さる方は...

阪神大震災地元NGO救援連絡会議

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL 078-578-6921
FAX 078-578-6923

(物資に関する問い合わせは実行委員会の方へ。)

なお、物資・食糧を送られる方は、恐れ入りますが必ず送料負担として1箱につき、2,000円を付けて下さるようよろしくお願い致します。

募集!!

救援物資の仕分け、梱包作業にボランティアとして参加して下さる方は、実行委員会までご連絡下さい!! (078-578-6921)